どのした淵

【梅雨に供えて・防災訓練】

いよいよ本格的な雨のシーズンです。5月28日には毎年恒例の防災訓練が実施されました。

災害に関する標語に「津波てんでんこ」という言葉があるのを御存知ですよね。この辺りで津波は関係ないかもしれませんが、関連があるのでお知らせします。

「てんでんこ」とはてんでんばらばらにという意味で、津波が来たら他人にかまわず逃げろという利己主義な誤解を受けやすい。しかし、元々この言葉を防災の標語として提唱した山下文夫の著書には、この言葉に「自分の命は自分で守る」ことだけでなく、「自分たちの地域は自分たちで守る」という主張も込めたと述べている。緊急時に災害弱者（子供・老人等）を手助けする方法などは、地域であらかじめ話し合って決めておくよう提案している。つまり、標語の意図は「他人を置き去りにしてでも逃げよう」ということではなく、あらかじめ互いの行動をきちんと話し合っておくことで、離れ離れになった家族を探したり、とっさの判断に迷ったりして逃げ遅れるのを防ぐのが第一である。

「津波てんでんこ」は、災害時の行動スキームをあらかじめ考え互いに共有しておくことを唱えた災害思想であり、「ばらばらに自分だけでも逃げる」という行為は、その意思を共有することで互いを探して共倒れすることを防ぐための約束事である。これは、自分が助かれば他人はどうなっても良いとする利己主義とはまったく異なる。

恒例の防災訓練も行動確認とその共有としてとっても大切な事ですね。

5年度のスローガンは『語り合い・共生協働による村づくり』です。

発行責任者
高峯公民会長
三　腰　善　行
090-1089-9432
令和5年6月1日発行

【消防団と防災点検】

防災訓練後、きらら分団泊野部と地域内の危険個所の点検を実施しました。家屋裏山の亀裂や崖・水路の状況確認と災害懸念箇所の点検です。家の周りの崖や水路の状況などは日頃からチェックし、災害に結び付きそうな現象があったら報告してください。

最近頻繁に地震のニュースが報道されるたびに、平成9年の県北西部地震を思い出します。

近年の気象現象は、災害は忘れた頃にやって来るのではなく、忘れる間もなく起こります。そんな心づもりで供えましょう。

5年度のテーマは『気づき・動き・紡ぐ』です。

たかんね寺小屋

【西郷隆盛の人生訓】

小説家童門冬二「西郷隆盛の人生訓」より抜粋

■自己愛はほどほどにせよ

「自分ばかりを愛するのは、決していいことではない。学問の修行ができないのも、あるいは仕事が成功しないのも、あるいは過ちを改めることができないのも、また、いたずらに功績のみを誇って、奢り昂るのも、すべて自分だけを愛しているからそうなるのだ。このへんは、戒めるべきである」

■反省は前進への肥料だ

「たとえ、過ちを犯しても、ああ、自分が間違っていたなと思えばもうそれでいい。そして、その過ちにはこだわりを棄てて、まっすぐに前に一歩を踏み出すべきだ。いつまでも、過ちをくよくよと思い患い、また人に知られて自分の体面を失い、あるいは周囲の評価が下がったなどと考え、本当は、こうだったなどと言い訳をするのがいちばん見苦しい。たとえば、茶碗をおとして割った時のことを考えよう。つなげても、もとには戻らない。割ったという行為を詫びれば、そのことはもう忘れるべきだ。かけらを集めて、あ～あ、あのときもっと気を付けてればよかったな、と思ってもとへ戻そうと思っても、それは無理だ。反省もほどほどにしないと嫌味になり、いたずらに自分を苦しめるだけだ。

【6・7月の行事予定】

田んぼの季節になりました。水は欲しいですが災害は無いに事を祈ります。何かと忙しい農繁期ではありますが、向こう2か月の行事予定をお知らせいたします。皆様の御協力よろしくお願いいたします。

6月1日　町文書発送日
6月4日　区集会所除草作業…当番1・2班
　午前8時に集会所に集まってください。
6月15日　町文書発送日
6月26日　爆笑落語4人衆　宮之城文化センター
7月6日　町文書発送日
7月16日　青少年ふるさと美化活動
　公民館周辺清掃活動
7月20日　町文書発送日

【焼酎もらいました】

地区外にお住いの大平悦子さんから焼酎頂きました。4年度は公民会費も納入された上に寄付金も頂きました。きのどっかごた～。帖佐英範さんからも毎年度寄付金を頂戴しています。ありがとうございます。

【どうする!?きらら公園】

平成8年に1億円弱で完成したきらら公園。町では合併以降公共施設の在り方検討委員会において、緊縮財政の緩和と類似・競合施設の維持存続について協議がなされてきました。個別計画においてきらら公園は、『譲渡若しくは廃止』の方向性が出されております。このまま何の打開策もなく利用頻度が少なくなり、区や企業・団体等の譲渡先が無ければ廃止（解体撤去）するということです。学校は統廃合で無くなり、キャンプ場は廃止され、公園まで無くなろうとしています。こんなんで良いっすかね。地区に一つぐらいは町の公園あっていいと思いませんか。枝葉は切りやすいですもんね。しかし枝葉が無いと幹は大きくならないんだよなあ。

そこで、今後の維持管理や活用策について、みずいろ電力さんと役場を交えて現地で意見交換を行いました。区から懸案事項として、①水路の水量確保②水車の修繕③トイレの洋式化（男女別）④看板のリメイク⑤公園側から轟の滝へのアクセス⑥維持管理体制⑦活用策の検討について提示しました。みずいろ電力さんからは地域貢献に対する心強いお言葉も頂きました。

一気に解決する事ではありませんが、四季を通しての活用策として春の花見、夏のビアガーデン、秋の紅葉狩り、冬のジビエを食む会などの提案も出されました。地域の要望として作って頂いた経緯も勘案し、泊野の宝として活かすためにどうするか、自分事として皆で考えていきましょう。

ふるさと回顧録

『泊野に生きて』　大阪府八尾市　久木野正志

第1章　春（3月～5月）NO 2

◆田植え・・・牛にスキを引かせて父が田んぼを耕し、畔を鍬で整える。苗床から括った苗をバランスよく放る。三角で回転させたり、竹で割った竿の端を目印に合わせる。植えるのが遅いとムカスネに当たって痛い。草取りには田車押し。稗など大きいものは手作業。

◆春の踊り・・・春休みの2週間、踊りの師匠さんを呼んで女の子が練習。成果の発表会を北野三郎様方の庭を借り、池の上に踊り舞台を作って、久木野公民会あげて行っていた。親はシメモン持参で焼酎。宮田・市野公民会も行っていた。終われば、いよいよ田植えの準備に入る。

第2章　夏（6月～8月）NO 1

◆みっじゃぶい（川泳ぎ）・・・宮田と久木野は「こばぶち」で一緒に泳いだ。また、久木野上公民会は大人が堰を造り、見張り当番を決めてあり、忙しい中大人が見守ってくれた。

◆イヲ捕い（魚とり）・・・箱メガネ。手造りパチンコ。アカモチ、ハイゴロ、ゴロイ等。アユは引っかけで。うなぎはタケズッポに餌はメメンキン（ミミズ）。丈夫なヒモに大きめの釣り針（餌は切り身魚）を岸に括り、翌朝見に行く。捕れたウナギはかぼちゃの葉を滑り止めでこしたえた。ヤマタロガイは竹籠で捕った。

次号は　夏・NO 2をお届けします。お楽しみに!!